

国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（小学校：算数）

1. 結果のポイント

- ・正答率は69%で、全国の63.4%を5.6ポイント、県の63%を6ポイント上回っている。
- ・領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」全ての領域で全国・県の正答率を上回っている。特に「数と計算」では、+8.2ポイントと全国の正答率を大きく上回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」で+6.4ポイント、「思考・判断・表現」で+3.5ポイント、全国の正答率を上回っている。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

（※全国の正答率を下回っていたもの・正答率が低かったもの）

(1) 変化と関係 4 (2) 3分間で180m歩くことを基に1800mを歩くのにかかる時間を書く。

たけるさんは、3分間で180m歩きました。同じ速さで歩き続けると、
1800m歩くのに何分間かかりますか。
答えを書きましょう。

① 出題のねらいと内容

速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる。

② 解答状況

- ・正答 30 正答率 65.8%（全国 70.0%）
- ・誤答 「10」と解答している児童 12.4%（全国 10.0%）
「60」「600」と解答している児童 8.0%（全国 7.5%）
無回答 3.1%（全国 3.3%）

③ 指導の改善事項

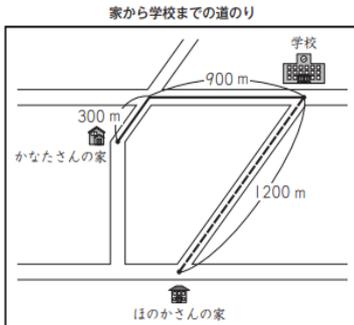
速さが一定である場合について、道のりと時間の関係について考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、3分間で180m歩くのと同じ速さで歩き続けると1800m歩くのに何分間かかるかを考え、説明する活動が考えられる。その際、1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係を用いたりすることができるようにすることが大切である。

また、360m・540m・720m、…などの道のりについて歩くのにかかる時間を考えることを通して、道のりが2倍、3倍、4倍、…となり、道のりと時間が比例の関係にあることに気付くことができるようにすることも大切である。

(2) 変化と関係 **4** (3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

その番号を選んだわけを言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

① 出題のねらいと内容

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

② 解答状況

・正答 番号1を選び AまたはBいずれかで理由を書いている

A かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことを表す言葉や数とかなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いことを表す言葉や数を書いている。

B かなたさんの歩く速さを表す数や式、言葉とほのかさんの歩く速さを表す数や式、言葉を書いている。

正答率 36.0% (全国 31.0%)

・誤答……1を選択しているが、理由にかなたさんとほのかさんの歩いた道のりが等しいことだけを記述している。33.5% (全国 30.8%)

無回答 1.2% (全国 2.4%)

③ 指導の改善事項

場面や目的に応じて、単位時間に当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようになることが重要である。

本問は、家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の歩く速さについて比べる問題である。道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問うている。かなたさんとほのかさんのどちらが速いかを判断するために、かなたさんとほのかさんが歩いた道のりと、かかった時間に着目し、道のりが等しい場合には時間が短いほど速さが速いことを説明したり、それぞれの速さを求めたりする活動が大切である。

かなたさんの方が速い理由を記述する上で、二つの事柄を書く必要があったが、どちらか一方の理由しか書けていなかったことから、不足なく説明できる力をつけていく必要がある。

【参考・引用】 令和6年度

全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)